

円陣～エンジン～



令和2年 9月 23日

根獅子小 校内研修通信 No8

文責 松田 優子

先週の木曜日は1・2年生の研究授業でした。授業公開をしていただいた濱口先生には、大変お忙しい中で指導案作成、教材準備などしていただきました。本当にありがとうございました。

こうやって授業をみせていただくことで、普段は見られない1・2年生の学習での顔を見ることができ、また低学年の子どもたちがどんな風に学んでいるのかということを見ることができ本当に勉強になります。

私が1時間みていた2年生の子は、この1時間で多くの学びをしていました。先生の話をしっかり聞き、つぶやきという形で反応もしっかりしていました。初めての問題で間違いをして、友達から学び、掲示物から学び、実際に数える難しさを知り、友達の考えの良さそして筆算の便利さを知りと、本当に多くの学びをしていました。学びが子どもたちのものになっていたように感じました。授業を見せていただき本当に勉強になりました。

【授業研究会では】

濱口先生より

自己決定・・・全員発表を目指してきた。1年・・・ブロックがうまく使えなかった。

2年・・・筆算で解こうとする子が多かった。繰り下がりもよくできていた。

自己存在感・・・発表者の話を聞くことはできていた。

1年・・・発表者の話し言葉の練習が必要。

2年・・・友達と相談する時間がなかった。

導入の場面

- ・見通しが立てやすかった。(何を使ってやりますか。ホワイトボードに方法の見通しが掲示)
- ・離れる前の指示がしっかりあった。

自力解決の場面

- ・2年生の筆算の間違え・・・答えの見通しがあればよかった。
- ・今までの足跡(掲示物)があったので児童の助けになっていた。

発表の場面

- ・1年生にもっと話させたい・・・3人で共同で解かせてみても面白かった。
- ・自信をもって発表していたが、周りの反応が薄かった。うなずき、拍手の気持ちを向上させる。
- ・つぶやきに人権的な言葉がたくさん「アッ同じ!」「あ一分かる分かる!」このようなつぶやきを友達との関わりの良さとして賞賛していく。
- ・1年生の話の聞き方が非常によかった。うなずき。
- ・最後の答えは自信をもって解けていた。みんなで確認することの大切さ。
- ・発表する友達の間違え、つまりなど指摘せず、優しく助言していた。成長を感じる。

今回の授業で濱口先生が実践された目指す子どもの姿に対する手立てを検証したことで、5・6年生の授業につながる良い研究会ができたと思います。授業研究会の流し方も教頭先生にお願いしてスムーズにかつ本校の大切にしているところを抑えた司会をしてくださって私も本当に勉強になりました。

会場設営や清掃など田中先生にもたくさん動いていただき、まさにみんなで作る授業研究会となりました。11月の本番に向け、皆さんで力を出し合いながらあと1か月余り頑張っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【指導助言】

○平戸市教委 岩男指導主事より

- ・日頃の人間関係が見られた。お互いを認め合う人間関係づくり
- ・複式の学級独特の視点・・・1年生と2年生の差 成長を感じられる。
- ・夏帆さんの成長 友達に自信を持って教えてあげていた。
- ・1年生 分からないがいえるように→分からないがいえることが理解力←教師の言葉掛け
- ・複式の学習では子どものつづやきが見られない場合が多い。→子ども同士の学び合いの中で見られることを目指して行ってほしい。

○県教委 原先生より

- ・アットホームな雰囲気・・・人権について普段から取り組んでいるところが見られた。
- ・自己存在感を感じるとは・・・参加している感 必要とされている感
- ・共感的人間関係とは・・・受け入れている 受け入れられている 共に学び合う人間関係
- ・自己存在感や共感的人間関係を育てる手立てを考えるという研究。
- ・1年生でも手立ての効果が現れている。→いいやりとり いい反応 いい関係性←これを認める。
- ・どの授業においても、「さらにのびたいことは何か」「こんな姿を目指したい。」「どういう子どもの姿を求めるのか。」ということで手立てをどう仕組むかというレイアウト工夫をしていく。
手立てを議論していくことが大切。

○県教委 末永先生

- ・日々の積み重ねは、必ず子どもたちに根付く。
- ・子どもたちを成長させる環境は学校、その環境がとても良いということが分かった。
授業研究会の発言から・・・EX：「次の組織として」
：「全体として」
：「日々の授業」
：「教師の出番」
- ・3校での共有を・・・「人権での学び」「算数の視点」どちらの研究なのか？
「学びが子どものものになっているか」という研究であってほしい。

※3人の先生方のお話をお聞きして、11月の研究発表で見ていただくべきものが、はっきりと分かった気がします。授業の中で子どもたちの実態に即して、どんな姿をみせたいのかということ、それに対する手立てをどういうものにするのかということです。まさに原先生が指導してくださった手立ての議論を今後の指導案検討で行っていくことが大切だと思います。そして授業の中で見せたい姿を全職員で今後も考えていけばよいと思います。そこで、御指導いただいた指導案の書き方について検討をお願いしたいと思います。

① 3 本時の学習指導 (2) 人権の視点から

- ・目指す児童の姿として「～の姿を目指す。」「～できる。」
- ・そのための手立てを示す。



2つの項目を立てる。

② 本時の展開の中で、人権の視点から目指す子どもの姿が見られる活動の場面を口で囲み強調する。

③ 児童観の中に人権の視点での達成状況をしめす。「学び合いの中では人の話をしっかりと聞くことができているが、自分の考えとの違いを考えながら聞くことはできない状況である」「友達の考えの良さを認める発言が未だにできない」など。指導観のなかにその達成のための手立てを明記する。